

## まえがき

ICUは、1953年から大学教育の一部として、外国人留学生のために、日本語教育を行ってきた、日本で最初の大学である。そのとき使用した教科書がICU編Modern Japanese for University Students, 1963刊である。

この教科書は内外で広く用いられてきたが、その後の教授法や学習理論の進展にともない、また、学習者のニーズの変化に対応するため、1989年以来、研究に実践に新教科書を模索してきた。昨年、講談社インターナショナルから本編を、今年、教師用指導書を刊行したので、本書の特色を広く知っていただくため、特集号を企画した。

新教科書「Japanese for College Students」は、初めて日本語を学ぶ大学生のために書かれたテキストで、読み・書き・話し・聞く、の4つのスキルを総合的に伸ばすように配慮してある。その基本シラバスは、構造シラバス、場面シラバス、機能シラバスの三本柱からなり、日本語を社会的文脈の中で使いこなしていくことを目的としている。ここに、第一の特色がある。

次に、各課のはじめの、Listening and Speaking のObjective の中で、その課の達成目標が明記されている。これが第二の特色である。教師も学習者も、外国語学習の過程で、何ができるようになるかを認識していることは、大変重要なことだからである。

更に豊富なイラストが、会話やロールプレイをやりやすくし、コミュニカティブな教え方を可能にしている。これが第三の特色である。一度、提示された重要な学習項目は、次の段階で再使用され、螺旋状に定着するように工夫してあるのである。

このような本書の特色は、どのように利用できるか、その実践報告、また、第三者からはどのように評価されるのか、JCSの可能性について徳本浩子氏に、書評を西尾珪子、吉岐久子、佐々木倫子、ネウストプニーの四氏にお願いした。おいそがしいなかそれぞれの立場から御執筆くださったことを心から感謝申し上げる。

なお、本号の編集は、飛田良文、中村一郎、村野良子が担当した。

1998年3月5日  
日本語教育研究センター長  
飛田良文